

## 三井住友信託銀行株式会社 (2022 年グリーンボンド)

契約の種類: アニュアルレビュー

日付: 2023 年 9 月 25 日

担当者 (Sustainalytics, a Morningstar Company) :

Mahesh Krishnamoorthy, [mahesh.krishnamoorthy@morningstar.com](mailto:mahesh.krishnamoorthy@morningstar.com)

Vedang Kulkarni, [vedang.kulkarni@morningstar.com](mailto:vedang.kulkarni@morningstar.com)

## はじめに

2022 年 3 月、三井住友信託銀行株式会社 (以下、「三井住友信託」) は再生可能エネルギー、エネルギー効率、クリーンな運輸、汚染の防止と管理、グリーンビルディングに関連するプロジェクトへのファイナンス及びリファイナンスを目的とするグリーンボンド (5 年債 500 百万米ドル、以下「2022 年グリーンボンド」) を発行しました。2023 年 9 月、三井住友信託は 2022 年グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトが三井住友信託銀行グリーンボンドフレームワーク (以下、「フレームワーク」) <sup>1</sup> で設定された資金使途のクライテリアやレポーティングの指標に合致しているかについて、サステナリティクスに評価を委託しました。サステナリティクスは 2021 年 2 月に当該フレームワークにセカンドパーティーオピニオン<sup>2</sup>を発行しており、今回が 2022 年 9 月の前回<sup>3</sup>に続く、当該フレームワークに基づいて発行されたグリーンボンドの資金充当及びレポーティングに関する 2 回目のアニュアルレビューとなります。

## 評価基準

サステナリティクスは、以下の要件について、2023 年 3 月 31 日時点で調達資金の充当を受けたプロジェクト及び資産について評価しました。

1. フレームワークで設定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. フレームワークで設定された調達資金の各使途カテゴリに対する、少なくとも一つの評価指標に関する報告

充当を受けた調達資金の使途カテゴリに対する適格クライテリア及び関連する評価指標を表 1 に示します。

表 1: 調達資金の使途及び適格クライテリア

調達資金の使途カテゴリ	適格クライテリア	評価指標
再生可能エネルギー	太陽光エネルギー、太陽熱エネルギー、風力エネルギー、地熱エネルギー (直接排出量が 100g-CO <sub>2</sub> /kWh未滿のプロジェクトに限る)、バイオマスエネルギー (食品と競合しない持続可能な原料及び/又は廃棄物に限り、ならびに直接排出量が 100g-CO <sub>2</sub> /kWh 未滿のプロジェクトに限る)、ならびに発電能力が25メガワット以下の小規模流れ込み式水力又は調整池のない河川水力の再生エネルギーの発電・送電インフラ、施設・機器の取得、開発、建設および運	CO <sub>2</sub> 排出の削減相当量 (トン単位)

<sup>1</sup> 三井住友信託銀行グリーンボンドフレームワークはこちらよりご覧いただけます:

[https://www.smth.jp/-/media/th/sustainability/greenbond/pdf/framework4\\_jp.pdf](https://www.smth.jp/-/media/th/sustainability/greenbond/pdf/framework4_jp.pdf)

<sup>2</sup> サステナリティクス, “三井住友信託銀行グリーンボンドフレームワークに関するセカンドパーティーオピニオン (2021) ”:

[https://www.smth.jp/-/media/th/sustainability/greenbond/pdf/framework3\\_jp.pdf](https://www.smth.jp/-/media/th/sustainability/greenbond/pdf/framework3_jp.pdf)

<sup>3</sup> サステナリティクス, “2022 年度 三井住友信託銀行 2022 年グリーンボンド発行に関するアニュアルレビュー”:

[https://www.smth.jp/-/media/th/sustainability/Initiatives\\_achievements/esgi/greenbond/pdf/20220310/Sustainalytics\\_Annual\\_Review\\_SMTB2022.pdf](https://www.smth.jp/-/media/th/sustainability/Initiatives_achievements/esgi/greenbond/pdf/20220310/Sustainalytics_Annual_Review_SMTB2022.pdf)

<p>グリーンビルディング</p>	<p>営。</p> <p>グリーンボンドが償還されるまでに、以下の認証の少なくとも一つを取得済み又は取得する予定の新規、既存又は改修建築物の取得、開発、建設。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● LEED（エネルギーと環境デザインにおけるリーダーシップ）：Platinum 又は Gold</li> <li>● BREEAM（英国建築研究所建築物性能評価制度）：Outstanding 又は Excellent</li> <li>● CASBEE（建築環境総合性能評価システム）：S ランク又は A ランク</li> <li>● DBJ（日本政策投資銀行）Green Building 認証：5 つ星又は 4 つ星</li> <li>● BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）：5 つ星又は 4 つ星</li> </ul> <p>適格グリーンビルディングには、J-REIT（日本の不動産投資法人）が保有する物件が含まれる場合があります、その場合には、J-REIT 保有の適格グリーンビルディングへの充当額は、適格グリーンビルディングの取得費用の按分比例に基づき算出される場合があります。J-REIT のプロジェクトへの充当額は、J-REIT への貸出額又は適格プロジェクト／資産への投資額以下とします。</p>	<p>グリーンビルディングの認証取得数と認証レベル</p>
-------------------	--	-------------------------------

## 発行体の責任

三井住友信託は、プロジェクトの説明、充当額、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報及び文書を提供する責任を負います。

## 独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）に関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、三井住友信託の 2022 年グリーンボンドによる調達資金の使途を検証しました。本契約の一環として、同社のフレームワークとの適合性の確認のため、三井住友信託からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、調査にあたって、対象プロジェクトに関して三井住友信託から提示された情報と事実に依拠しています。三井住友信託が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果<sup>4</sup>、すべての重要な側面において、審査されたプロジェクトが、フレームワークで規定された調達資金の用途及びレポーティングの指標に適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。三井住友信託は、サステナリティクスに対し、2022年グリーンボンドによる調達資金が、2023年3月末時点で、全て充当されていることを開示しています。

## 調査結果の詳細

表 2: 調査結果の詳細

フレームワークの要請事項	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
資金用途 クライテリア	2023年3月31日時点で2022年グリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、フレームワークに示されている資金用途クライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは資金用途クライテリアに適合していました。	該当なし
レポーティング クライテリア	2023年3月31日時点で2022年グリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがフレームワークに示されている評価指標と適合する形で報告されたかを検証。	審査したすべてのプロジェクトにおいて、各用途カテゴリー毎に少なくとも1つの評価指標が報告されていました。	該当なし

<sup>4</sup> サステナリティクスの限定保証プロセスには、発行体が責任を持って提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する正確な文書（プロジェクトの説明、プロジェクトのコストとインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

## 参考資料

### 参考資料 1: 2022 年グリーンボンド発行による調達資金の充当状況と報告されたインパクト<sup>5</sup>

#### 1. 再生可能エネルギー

プロジェクト カテゴリー	サブ カテゴリー	プロジェ クト数	インパクト指標		融資残高 (百万米ドル) <sup>6</sup>
			CO <sub>2</sub> 排出削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	CO <sub>2</sub> 排出削減量の 合計の内、三井住 友信託に帰属する もの (t-CO <sub>2</sub> /年)	
再生可能 エネルギー	太陽光	5	202,944	45,640	196
再生可能 エネルギー	風力	2	387,718	50,876	94
合計		7	590,662	96,516	290

#### 2. グリーンビルディング

プロジェクト カテゴリー	物件数	インパクト指標	融資残高 (百万米ドル) <sup>7</sup>
グリーン ビルディング	2	DBJ Green Building 認証 5 つ星 : 1 つ DBJ Green Building 認証 4 つ星 : 1 つ	238

#### 調達資金の充当状況

項目	金額 (百万米ドル) <sup>8</sup>
グリーンボンド発行による調達資金の手取り金合計:	500
融資残高合計:	528
調達資金の未充当額合計:	0

<sup>5</sup> 三井住友信託銀行によるインパクトレポートはこちらよりご覧頂けます:

[https://www.smth.jp/sustainability/initiatives\\_achievements/esgi/greenbond](https://www.smth.jp/sustainability/initiatives_achievements/esgi/greenbond)

<sup>6</sup> 融資残高は、2022 年 3 月 31 日時点の為替レート（債券発行日月末時点レート、1 米ドル=122.38 円）にて米ドル換算し、百万米ドル未満を四捨五入して表示しています。また、ユーロ建ての融資残高については、2022 年 3 月 31 日時点の為替レート（債券発行日月末時点レート、1 ユーロ=1.1173 米ドル）にて米ドルに換算し、百万米ドル未満を四捨五入して表示しています。

<sup>7</sup> 同上

<sup>8</sup> 同上

## 免責事項

### © Sustainalytics 2023 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に包含又は反映されている情報、手法及び意見は、サステイナリティクス及び／又はその第三者供給者の所有物（以下、「第三者データ」）であり、サステイナリティクスが開示した形式及びフォーマットによる場合又は適切な引用及び表示が確保される場合のみ第三者へ提供されます。これらは、情報提供のみを目的として提供されており、（1）製品又はプロジェクトの保証となるものではなく、（2）投資助言、財務助言又は目論見書となるものではなく、（3）有価証券の売買、プロジェクトの選択又は何らかの種類の商取引の実施の提案又は表示と解釈してはならず、（4）発行体の財務業績、金融債務又は信用力の評価を表明するものではなく、（5）いかなる募集開示にも組み込まれておらず、組み込んではありません。

これらは、発行体から提供された情報に基づいたものですので、これらの商品性、完全性、正確性、最新性又は特定目的適合性は保証されていません。情報及びデータは、現状有姿にて提供されており、それらの作成及び公表日時点のサステイナリティクスの意見を反映しています。サステイナリティクスは、法律に明示的に要求されている場合を除き、いかなる方法であっても、本書に含まれた情報、データ又は意見の使用に起因する損害について一切責任を負いません。第三者の名称又は第三者データへの言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援又は推奨を意味するものではありません。当社の第三者データ提供者のリスト及びこれら各者の利用規約は、当社のウェブサイトに掲載されています。詳しくは、<http://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers> をご参照ください。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行及び監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版との間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先されるものとします。

## サステナリティクス（モーニングスター・カンパニー）

サステナリティクスは、モーニングスター・カンパニーであり、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、評価及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。30年以上の間、グローバルな投資家の進化するニーズに応える高品質かつ先進的なソリューションを提供し続けています。その上で、ESG及びコーポレート・ガバナンスに関する情報及び評価を投資プロセスに組み込んでいる、数百に及ぶ世界の主要な資産運用会社や年金基金を支援しています。また、サステナリティクスは、数百に及ぶ企業や金融仲介者と協働してサステナビリティに関連する方針、実務、資金調達の検討を支援しています。サステナリティクスは、世界17カ所にオフィスを構え、40以上の産業グループにまたがる様々な分野の専門知識を持つ500人以上のアナリストを含む、1500人以上のスタッフを擁しています。

詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照ください。

又は、[contact@sustainalytics.com](mailto:contact@sustainalytics.com) にご連絡ください。

